



フォーミュラへのステップアップ支援 もてぎカートレースのスカラシップ制度も新設

茂木町に拠点を置くレーシングチーム「ル・ボーセモータースポーツ(MS)」は、レーシングカート経験者を対象にフォーミュラカーへのスムーズなステップアップを支援する「フォーミュラアカデミー」を開催している。これまで入門フォーミュラのS・FJから国内最高峰のスーパーフォーミュラまで、さまざまなカテゴリーを手掛けてきた同チームならではのノウハウを伝授するスキルアップ・プログラムだ。今年は新たにツインリンクもてぎとのコラボレーションにより、もてぎカートレースの年間上位選手に無料でフォーミュラカー体験試乗走行の機会を提供する「スカラシップ制度」もスタート。同チームの坪松唯夫代表・監督は「フォーミュラカーのドライバー志望者が年々減っている現状に歯止めをかけたい。若い才能を発掘し、将来的に世界で戦えるドライバーに育成できれば」と意欲を示している。

受講者には全日本F3選手権 チャンピオンも

ル・ボーセMSの「フォーミュラアカデミー」は5年前にスタート。当初は、年に数人の受講者に対しチームスタッフらがマンツーマン指導するスタイルで、現在、スーパーフォーミュラに参戦している中山雄一や今季の全日本F3選手権シリーズチャンピオンに輝いた山下健太ら若き才能を発掘してきた。3年前からは「オープンアカデミー」と称して毎回20人程度が同時に参加できるスタイルに変更した結果、受講者は5年間で約100人と一気に

増えたものの、「間口が広がった一方で、14歳や13歳の受講者が多くなり低年齢化が進んだ。この結果、アカデミーで学んでからフォーミュラに上がるまでに時間差が生じてしまい、あまり効率的なステップアップに結び付かなくなってきた(坪松代表)という。

このため、今年是新機軸として、男女を問わず16歳(高校1年)以上のレーシングカート経験者を対象とした「スカラシップ制度」を導入。ツインリンクもてぎの北ショートコースを舞台に展開されているレーシングカートのシリーズ戦「もてぎカートレース」の3クラスで年間シリーズランキング3位に入った計9人にアカデミー所有のフォーミュラカーの試乗走行を体験してもらうことにしたという。もてぎカートレース最終戦は11月27日で、この結果を踏まえて12月17日に北ショートコースで試乗走行を行う予定だ。

坪松代表は、スカラシップ制度の狙いを「フォーミュラのレースに出場できるのは16歳から。レーシングカートで結果を残してきた子たちに、いいタイミングでフォーミュラに触れてもらい、ステップアップしたいという意識を高めてもらう」と説明する。

夢は「世界で活躍するトップドライバー」育成

そもそも、坪松代表が25年ほど前、フォーミュラを扱うメンテナンスマスター「ル・ボーセ」を立ち上げたのは、かつて共にレースを戦った盟友の元F1ドライバー片山右京氏に続く若手ドライバーを発掘・育成するため。



「メカニックとして右京と一緒に戦っていた頃のように熱くなるレースがしたい」と考え、フォーミュラの入門カテゴリーであるFJ1600から

参戦を開始し、メーカー系フォーミュラのフォーミュラ・トヨタ、そしてスーパーフォーミュラへと、所属ドライバーと共にステップアップしてきた。その後、2003年にル・ボーセの事業を引き継ぐ形で独立、有会社ル・ボーセモータースポーツを設立した。07年、長年の夢であったファクトリーをツインリンクもてぎ近くへ移設し、現在は若手ドライバーの登竜門レース「FIA F4選手権」に参戦しながら、アカデミーを通してさらなる若手ドライバーの発掘、育成に力を注いでいる。

坪松代表は「いくら素質のある子でも厳しい競争がなければそれを伸ばすことはできません。僕らはそうした環境を与えることができます」とし、「自分を磨いて将来は世界で戦いたいという野心にあふれた子たちにぜひアカデミーの門をたたいてほしい」と熱く語る。



フォーミュラアカデミーに関する問い合わせは、

ル・ボーセMS
電話0285・64・1962へ。